

看護学概論

水田 克子

1 目的

看護学の基本を理解し、体系化の礎を養う。

2 目標

- 1) 看護の概念を理解する。
- 2) 看護の歴史的変遷を把握し、現在の看護の諸問題を考えることができる。
- 3) 保健医療福祉チームと看護チームの機能と役割を理解する。
- 4) 看護における倫理について考え、自分の意見を述べるができる。

3 単位数・時間数・時期 1単位・30時間 1年次前期

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	看護への誘い フローレンス・ナイチンゲール	講義
2	看護の概念 看護の成り立ち	講義
3	看護の概念 看護の定義	講義
4	看護の対象 心とからだ 成長・発達	講義
5	看護の対象 成長・発達	講義
6	看護の対象 「暮らし」を理解する	講義・グループワーク
7	看護の対象 看護の対象	講義
8	看護の提供者 職業としての看護 養成制度と就業状況	講義
9	看護の提供者 教育とキャリア開発	講義
10	看護の提供のしくみ サービスとサービス提供の場	講義
11	看護の提供のしくみ 看護をめぐる制度と政策	講義
12	職業倫理としての看護倫理	講義
13	看護と倫理 倫理的ジレンマ 「あなたならどうする」	グループワーク
14	看護と倫理 倫理的ジレンマ 「あなたならどうする」	グループワーク・発表
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 看護学概論 医学書院
- 2) 系統看護学講座 看護倫理 医学書院

医療安全

中野 和美

1 目的

医療事故の構造と組織的な安全管理体制について理解し、安全な看護を提供するための事故防止対策と事故発生時の対応についての基礎的能力を養う。

2 目標

- 1) 医療事故発生メカニズムと、防止対策について理解する。
- 2) 医療現場における安全対策と事故発生後の対応について理解する。
- 3) 看護学生として実習中の状況に関連づけた分析と対応策を考える。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 3 年次前期

4 授業計画

		内 容	
1	看護と医療安全	看護業務の法的規定, 事故の定義・分類	講義
2	事故の発生の現状	情報収集	講義
3	事故発生メカニズム	ヒューマンエラー, 事故分析・事故対策の考え方	講義
4	事故防止対策	事件事例と予防対策	演習
5			
6	医療機関・在宅看護における安全対策	組織における取り組み, 安全文化の醸成, 在宅における事故と対応	講義
7			
8	事故防止対策	【発表会】	発表
9	KYT	KYT基礎4ラウンド法	講義
10	KYT 演習	イラストKYT	演習
11			
12	安全対策の実際	安全対策の実際(県立中央病院 医療安全担当師長)	講義
13	事故発生時の対応	事故発生時の対応	講義
14	筆記試験		筆記試験
15	医療安全まとめ	医療安全の学びと自己の課題	講義・演習

5 評価

授業態度, 課題等提出物, 科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で, 授業に参加すること。
- 2) 常に臨床の場面をイメージしながら主体的に課題学習に取り組むこと。

7 テキスト

- 1) 医療安全ワークブック 医学書院
- 2) ナーシンググラフィカ 医療安全 メディカ出版(電子テキスト)

終末期にある人の看護

中野 和美

1 目的

成人の終末期にある対象の特徴及び疾患に応じた看護を学び、看護実践に活かす知識を養う。

2. 目標

- 1) 終末期にある患者の特徴及びその家族に対する看護を学ぶ。
- 2) 対象と家族のクオリティオブライフを実現する 看護について学ぶ。
- 3) 終末期にある対象の疾患に応じた看護を学ぶ。

3 単位数・時間数・時期

1単位・30時間 2年次

4 授業計画

	主題	学習内容	授業形態
1	終末期とは		講義
2	呼吸機能障害のある患者の特徴		講義
3	症状に対する看護		講義
4	日常生活支援 意思決定支援		講義
5	検査・処置時の看護	気管内挿管・胸腔ドレナージ	演習
6		気管支鏡・排痰法・気管内吸引等	
7		気管内吸引	
8	酸素療法を受ける患者の看護	酸素ボンベ・人工呼吸器	講義
9		酸素療法中の看護	技術演習
10	機能障害をもちながら生活する人の看護	肺がん・慢性閉塞性肺疾患(COPD)	講義・演習
11		気管支喘息	
12		薬物療法と看護	
13	緩和ケア	緩和ケアとは、全人的ケア	講義
14	(緩和ケア認定看護師)	家族のケア、臨死期のケア	
15	科目最終試験	筆記テスト	

5 評価

授業態度、レポート課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

事前課題に取り組み、主体的に演習に参加すること。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 系統看護学講座 別巻 緩和ケア
- 2) 系統看護学講座 成人看護学 [1] 総論
- 3) 系統看護学講座 成人看護学 [2] 呼吸器

臨床判断の基礎

以西 泰宏

1 目的

臨床判断を行うための基礎的能力として、既習の専門基礎分野（解剖生理・病理・薬理）の知識を活用する能力を養う。

2 目標

- 1) 臨床判断モデルの強みを理解する。
- 2) 解剖生理・病理・薬理学の知識を看護に活用する方法を理解する。
- 3) 臨床判断能力の施行プロセスを理解する。

3 単位数・時間数・時期

1単位・15時間 1年次後期

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	アセスメントに活かす推論技術	講義
2	症状別臨床判断・臨床推論 : 発熱・高体温	講義・演習
3	症状別臨床判断・臨床推論 : 呼吸困難	講義・演習
4	症状別臨床判断・臨床推論 : 低血圧	講義・演習
5	症状別臨床判断・臨床推論 : 高血圧	講義・演習
6	症状別臨床判断・臨床推論 : 浮腫	講義・演習
7	症状別臨床判断・臨床推論 : 手足のしびれ・麻痺・高齢者	講義・演習
8	科目最終試験	筆記試験

5 評価

筆記試験,授業態度,提出物などを総合的に判断する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。
- 2) 既習の解剖生理・病理・薬理の知識を想起し、必要であればその資料等を持参すること。

7 テキスト

- 1) アセスメントに自信がつく臨床推論入門（メディカ出版）

8 参考資料

- 1) 実践につよくなる看護の臨床推論（学研）

臨床判断演習 I 症状に対する臨床判断

以西 泰宏

1 目的

臨床判断を行う基礎的能力を活用し、看護実践できる能力を養う。

2 目標

- 1) 看護学の視点から人体を系統立てて理解することができる。
- 2) 臨床判断は、健康障害を持つ人の生活援助場面における看護行為全体に関わる思考であることが理解出来る。
- 3) 臨床判断能力は、看護行為全体に関わる看護師としての意思決定する能力であることが理解出来る。
- 4) 各領域の臨床看護師による専門的な臨床判断能力を学び、看護実践につなげることができる。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 2 年次前期

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	臨床判断・臨床推論とは（復習） 演習の進め方の説明	講義
2	事例 1 による臨床判断・推論の進め方①	講義・演習
3	事例 1 による臨床判断・推論の進め方②	講義・演習
4	事例 1 による臨床判断・推論の進め方③	講義・演習
5	事例 1 による臨床判断・推論の進め方④	講義・演習
6	事例 2 を用いて臨床判断・推論演習①	演習（グループワーク）
7	事例 2 を用いて臨床判断・推論演習②	演習（グループワーク）
8	事例 2 を用いて臨床判断・推論演習③	演習（グループワーク）
9	事例 2 を用いて臨床判断・推論演習④（発表会）	グループ発表
10	事例 3 を用いて臨床判断・推論演習①	演習（グループワーク）
11	事例 3 を用いて臨床判断・推論演習②	演習（グループワーク）
12	事例 3 を用いて臨床判断・推論演習③	演習（グループワーク）
13	事例 3 を用いて臨床判断・推論演習④（発表会）	グループ発表
14	まとめ	講義
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

筆記試験、授業態度（GW への取り組み）、発表、提出物などを総合的に判断する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。
- 2) 事例を用いた演習（グループワーク）へは積極的に参加し、献身的に取り組むこと。
- 3) 発表会では自分たちのグループの考えが、相手に伝わるような文章にして発表すること。

7 テキスト

- 1) アセスメントに自信がつく臨床推論入門（メディカ出版）

8 参考資料

- 1) 実践につよくなる看護の臨床推論（学研）

小児看護の実践

以西 泰宏

1 目的

小児看護を実践するために必要な看護過程を展開する能力、小児のフィジカルアセスメントをできる能力、小児看護における指導する能力の必要性、基礎的知識を養う。

2 目標

- 1) 小児の発達段階を考えたアセスメントに基づく小児の看護過程が展開できる。
- 2) 小児看護領域で留意すべき、子どもの権利を理解することができる。
- 3) 小児看護の様々な場面におけるフィジカルアセスメントの必要性を理解することができる。
- 4) 小児看護に必要な基礎的技術、日常生活援助を理解し、習得できる。
- 5) 小児の救命救急の特徴が理解できる。

3 単位数・時間数・時期

1単位・15時間 2年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	小児看護における看護過程の特徴	講義
2	事例による看護過程の展開	講義・演習
3	子どもの虐待と看護	講義
4	小児の救命救急処置の種類と実際	講義
5	小児の観察、バイタルサインの特徴と実際①	講義
6	小児の観察、バイタルサインの特徴と実際②	演習
7	小児の観察、バイタルサインの特徴と実際③	演習
8	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、レポート課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 講義、校内演習で学習したことは各自で復習をしてください。
- 2) 講義内容の順序は、変更になる場合があります。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院)
- 2) 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② (医学書院)
- 3) 写真でわかる 小児看護技術アドバンス (インターメディカ)

看護技術統合演習

四宮 洋子

1 目的

看護実務のシナリオとシーンから医療安全を基本とした看護を展開する方法を学ぶ。

2 目標

- 1) 背景の異なる複数患者を受け持ち「わかってできる」行動は何かを考えることができる。
- 2) グループメンバーと協同し、医療安全の視点で判断し行動することができる。
- 3) 倫理的視点を基本とした判断や行動をすることができる。
- 4) 自己の課題を見出すことができる。

3 単位数・時間数・時期

1 単位・30 時間 3 年次後期

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	臨床におけるアセスメントの段階 看護実践と臨床推論	紙上事例を用いた学習
2	場面で考える臨床推論 病態と症状の関連	紙上事例を用いた学習
3	入院時の情報収集とアセスメント・環境整備 転倒転落時の対応と看護	模擬患者でのシミュレーション学習
4 5	術前・術後の観察と合併症の早期発見	模擬患者でのシミュレーション学習
6	術後の輸液管理 点滴静脈内注射（持続点滴の固定、滴下量計算と実施）	演習
7 8	DM教育入院時の患者への関わり 低血糖時の観察、夜間巡視時の観察	模擬患者でのシミュレーション学習
9 10	急変時の初期評価と対応 心筋梗塞 患者の症状増悪時の医師へ報告	模擬患者でのシミュレーション学習
11 12	輸液ポンプ・シリンジポンプの設定と実施時の注意事項 一次救命処置	演習
13 14	複数患者の受け持ち時の優先度を考えた検温 複数のナースコールがあった場合の対応	模擬患者でのシミュレーション学習
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 実習室で行う場合は、既定のトレーニングウェアを着用する。
- 2) 演習にふさわしい服装・身だしなみで臨むこと。
- 3) メンバー構成 4～5名×10グループ体的に学ぶ姿勢で、授業に参加すること。

7 テキスト

- 1) 医療安全ワークブック 医学書院
- 2) 写真でわかる実習で使える看護技術アドバンス インターメディカ出版
- 3) 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
- 4) 今日の治療薬 南江堂
- 5) エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規

看護過程の基礎

四宮 洋子

1 目的

看護記録の意義と目的・看護過程の展開の基本を理解し、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程のプロセスと看護診断が理解できる能力を養う。

2 目標

- 1) 看護過程の構成要素を理解する。
- 2) 看護過程の各段階の意味, 具体的展開方法を理解する。
- 3) 看護過程の思考技術の基本を理解する。
- 4) 記録・報告の意義と原則を理解する。

3 単位数・時間数・時期

1単位・30時間 1年次

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	看護過程とは、看護過程に必要な能力	講義・演習
2	観察・情報収集	講義・演習
3	記録・報告の意義	講義・演習
4	アセスメント 情報収集：ゴードン機能的健康パターン	講義
5	アセスメント 情報の分析	講義
6	看護問題の明確化	講義
7	看護問題の明確化	グループワーク
8	看護計画	講義
9	看護計画	グループワーク
10	実施・評価	講義
11	紙上事例による演習 アセスメント	演習
12	紙上事例による演習 アセスメント	演習
13	紙上事例による演習 看護問題の明確化・看護計画	演習
14	紙上事例による看護過程	発表
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度, 課題等提出物, 科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 主体的に学ぶ姿勢で, 授業に参加すること。
- 2) グループワークに積極的に参加する。
- 3) 課題の提出期限を守る。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院
- 2) 事例で学ぶ看護過程 PART 1 学研
- 3) アセスメント覚え書きゴードン機能的健康パターンと看護診断 医学書院
- 4) NANDA-Ⅰ看護診断 定義と分類 2021-2023
- 5) エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 中央法規

診療の補助技術

作田 久美

1 目的

病原体の人体への侵入を防ぎ、看護師が実践する診療の補助に伴う基本的な技術について安全・安楽に実践できる能力を養う。

2 目標

- 1) 感染予防の意義・目的・方法を理解できる。
- 2) 薬物療法の原則と留意事項を正確に理解できる。
- 3) 創傷管理の基礎知識を理解できる。
- 4) 治療・検査時の対象心理、看護の役割を理解できる。
- 5) 採血法を理解でき、モデル人形を使用して安全に採血できる。

3 単位数・時間数・時期

1単位・30時間 1年次前期～後期

4 授業計画

回	学習内容	授業形態
1	標準予防策と感染経路別予防策	講義
2	手指衛生・無菌操作について	講義
3	消毒・滅菌について	講義
4	感染性廃棄物の取り扱い、針刺し事故防止策について	講義
5	無菌操作・ガウンテクニック法・手指衛生 滅菌手袋装着	演習
6	与薬の基礎知識 (薬剤の種類と取り扱い、与薬における看護師の役割)	講義
7	与薬方法と効果の観察	講義
8	中心静脈カテーテル留置の介助 輸血管理・カテーテル関連血流感染対策	講義
9	皮下注射・筋肉内注射の実際	演習
10	静脈内注射の実際	演習
11	診察・検査時の看護師の役割、対象心理	講義
12	創傷の治癒過程・アセスメント、包帯法	講義
13	静脈血採血法について	講義
14	静脈血採血法の実際	演習
15	科目最終試験	筆記試験

5 評価

授業態度、課題等提出物、科目最終試験で総合的に評価する。

6 留意事項

- 1) 事前課題に取り組み、主体的に演習に参加すること。
- 2) どの技術項目も正確さを要求されるため、未熟な技術は事故につながる恐れがあることを留意し、演習に臨むこと。

7 テキスト

- 1) 系統看護学講座 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)
- 2) 写真でわかる 実習で使える看護技術アドバンス (インターメディカ)